

### ◆ これからのボランティア活動

災害ボランティア活動は、災害発生直後の「緊急支援」から仮設住宅へ移行する時期の「生活支援」、そしてまちの活性化を図りながら、各人のくらしの質を高めていく「復興支援」へと変化します。

約半年経ち、地域差はあるものの、「泥かき」（生活支援）から、被災者の「ふだんのからし」へのサポート（復興支援）に入りつつあります。まちづくり、コミュニティーづくりへの側面支援です。もちろん、地域の商業復興や地元の雇用創出には配慮が必要です（無料の物資提供はやらない等）。ではボランティア活動は何ができるのか。

今回災害支援に行ったある人は、「最大の防災対策は、地域コミュニティの形成とその維持継続である。人と人のつながりが、困難な状況の中でも光をもたらす。そのつながりをつくり、地域コミュニティを広げていくことは、生協の大きな役割。そのために自分でできることをしていきたい」と述べています。まだまだ地域によっては泥かきやがれき撤去、炊き出し、物資提供など必要な活動はありますが、「地域のつながりづくり支援」が次の段階になるのではないのでしょうか。

（日本生協連・福祉事業推進部 尾崎靖宏）

## 岩手県の引っ越し支援へ全国から生協職員が集結



2カ月半で23生協・組織、延べ537名の生協職員が参加。



手際よくトラックへ。



参加者は活動の中で被災地の現在を体感。

岩手県災害ボランティアセンターからの要請を受け、日本生協連と岩手県生協連では、仮設住宅への引っ越しがピークになる5月31日から2カ月半にわたって、201軒の引っ越し支援活動を行ないました。

遠野市に生協の支援活動の拠点が置かれ、常時10人前後が待機。岩手県災害ボランティアセンターの要請に応じ2人一組で被災地へ。大型家電や家具の運搬もありましたが、支援する生協職員たちは大粒の汗をかきながら奮闘しました。幹線道路沿いのがれきは撤去され、一見、復興が進んでいるように見えます。しかし、引っ越しのために裏道へ回れば、混乱状態の地域が数多く残されています。これからも多くの支援が求められています。

## コープふくしま・放射性物質除染ボランティア



何年間にもわたり住み続ける人の健康を守るのが除染の目的。

福島県内の各行政では放射性物質の除染活動が始まっており、コープふくしまは、この活動へのボランティア参加を呼びかけています。道路の表土を2cmほどシャベルで削り、その土をビニール袋に入れて運び出すと、放射線量は10分の1程度になります。除去した土の廃棄場所は難しい問題で、市の対応だけでは限界があり、放射性物質による汚染への全体的な対応を国が主導的に行なっていく必要があります。

コープふくしまでは、放射能勉強会の開催、簡易携帯型線量計の販売やガラスバッジ（個人被ばく線量計）による測定サービス提供など、放射能に対する正しい認識を広めることに努めてきました。

「除染は地道な作業ですが、やればやっただけの成果は出ます。福島を自ら知る機会にもなりますので、多くの方がボランティアとして参加し、長期的な取り組みに協力いただけるとうれしいです」（コープふくしま・野中俊吉専務理事）